

# 取扱説明書

dxfrQR

Ver1.01

## 改訂履歴

2026.01.22

dxFQR Ver1.00 → dxFQR Ver1.01 のバージョンアップに伴い  
ファイル名とタイトルを変更。

DXF の出力オプションに CellType が追加されたので、機能説明に説明文を追加。  
付録のコマンドリストにも CellType の項目を追加。

## 1. はじめに

dxfrQR は QR コードを dxf または画像データとして出力するソフトウェアです。

また、このソフトウェアは実行ファイルのみでの動作に対応しており、コマンドラインや他のソフトウェアから引数を与えてご使用いただくことも可能です。

## 2. 機能説明

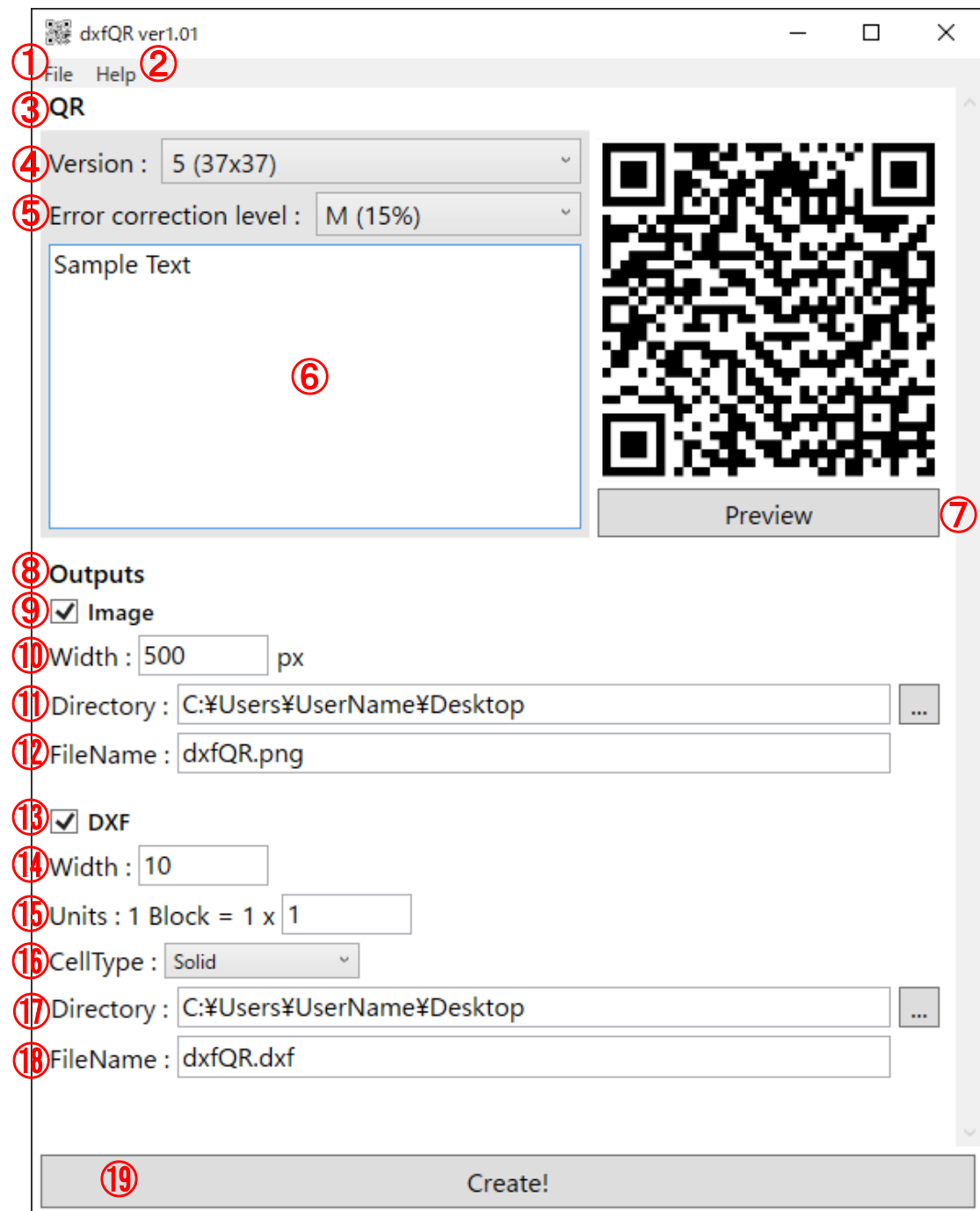


図 1, メインウィンドウ

### ① メニューバー - File

入力した設定値の保存や読み込みができます。

画面上に設定ファイルをドラッグ&ドロップすることでも読み込むことができます。

## ② メニューバー - Help

ソフトのアップデート履歴、簡単な使い方、コマンドラインのコマンド一覧をサブウィンドウに表示して確認することができます。

## ③ QR

この項目では生成する QR コードの詳細を設定できます。

## ④ QR - Version

QR コードのバージョンを設定できます。

バージョンは 1~40 まで選択可能です。

## ⑤ QR - Error correction level (誤り訂正レベル)

QR コードの誤り訂正レベルを設定できます。

下記の 4 種類の中から選択可能です。

L : ~7%

M : ~15%

Q : ~25%

H : ~30%

## ⑥ QR - テキストボックス

QR コードにするテキストデータを入力できます。

## ⑦ QR - Preview ボタン

QR 項目で設定されているデータを元に QR コードの画像を作成しプレビューとして表示します。

## ⑧ Outputs

QR コードの画像や DXF の出力設定を行えます。

## ⑨ Outputs - Image チェックボックス

チェックを入れた場合、Create ボタン押下時に QR コードの画像を出力します。


## ⑩ Outputs - Image - Width

出力画像の幅をピクセル単位で設定できます。

500 などの整数値を入力できます。

#### ⑪ Outputs - Image - Directory

画像の出力先を設定できます。

右側の  ボタンを押すことでフォルダーダイアログから選択することもできます。

#### ⑫ Outputs - Image - FileName

出力画像のファイル名を設定できます。

例えば「dxfrqr.png」などです。

対応拡張子は「png, jpg, jpeg, gif, bmp, emf, wmf, tif, tiff」です。

拡張子を入力しない場合は png で出力されます。

#### ⑬ Outputs - DXF チェックボックス

チェックを入れた場合、Create ボタン押下時に QR コードの DXF を出力します。

#### ⑭ Outputs - DXF - Width

出力 DXF の幅を設定できます。単位はありません。

10.0 などの実数値を入力できます。(整数値でも問題ありません。)

#### ⑮ Outputs - DXF - Units

DXF を出力する際の 1 ブロック当たりの分割数を設定できます。

1 などの整数値を入力できます。

1Block = 1x1 の設定では 1 ブロックを 1 つの四角で出力しますが

1Block = 2x2 の設定では 1 ブロックを 4 つの四角で出力します。

下記図にて例を示します。

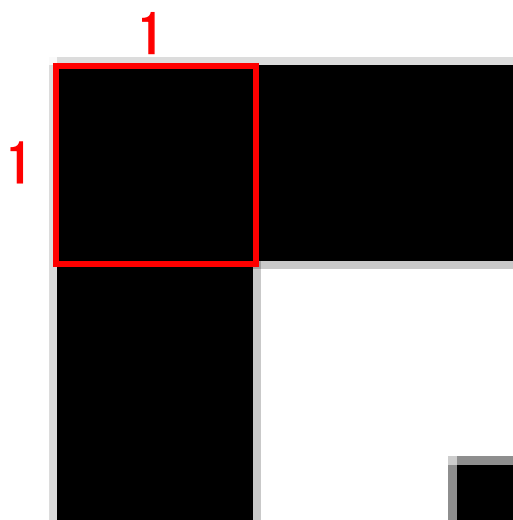


図 2, 1Block = 1x1 の場合

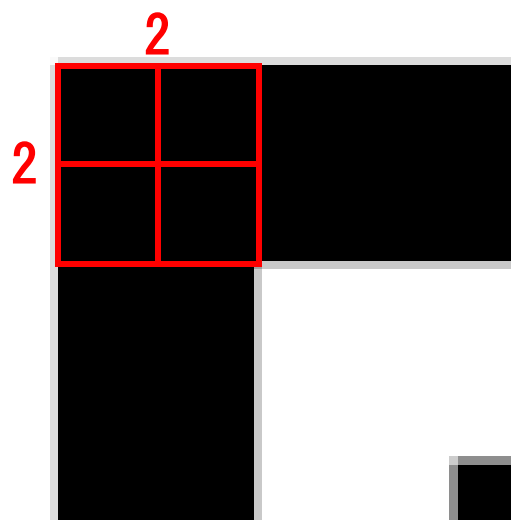


図 3, 1Block = 2x2 の場合

#### ⑩ Outputs - DXF - CellType

DXF を出力する際のセルの形状を設定できます。

Solid : 塗りつぶされた四角形

SolidCircle : 塗りつぶされた円

Circle : 円

Point : 点

SolidCircle は Solid エンティティで作った三角形を 36 個並べて円を描いています。  
データ量がとても多いので注意が必要です。



図 4, Solid

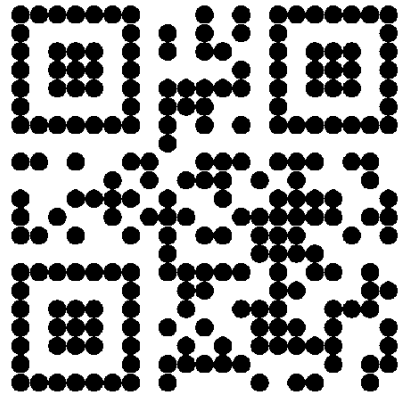


図 5, Solid Circle

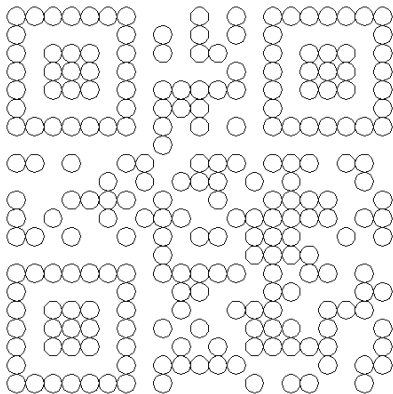


図 6, Circle

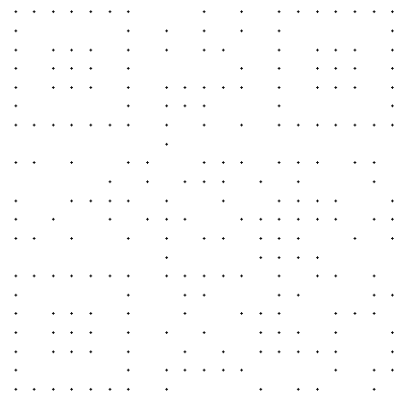



図 7, Point

#### ⑪ Outputs - DXF - Directory

DXF の出力先を設定できます。

右側の  ボタンを押すことでフォルダーダイアログから選択することもできます。

#### ⑫ Outputs - DXF - FileName

出力 DXF のファイル名を設定できます。

例えば「dxfQR.dxf」です。

対応拡張子は「dxf」のみです。

拡張子を入力しなくても dxf で出力されます。

#### ⑬ Create ボタン

Outputs の設定を元に各種ファイルを出力します。



### 3. コマンドライン

dxfqR はコマンドラインでのプログラム実行に対応しています。

コマンドプロンプトやバッチファイルで「dxfqR.exe <コマンド>」の形式でプログラムを実行することができます。

普通に立ち上げた場合と同様の操作が可能となっております。

また、ウィンドウを立ち上げずにプログラムを実行し終了することも可能です。(そのようなコマンドが用意してあります。)

コマンド一覧は「dxfqR.exe -h」で確認(下記図参照)するか、Help → CommandList で確認するか、この資料の付録をご覧ください。

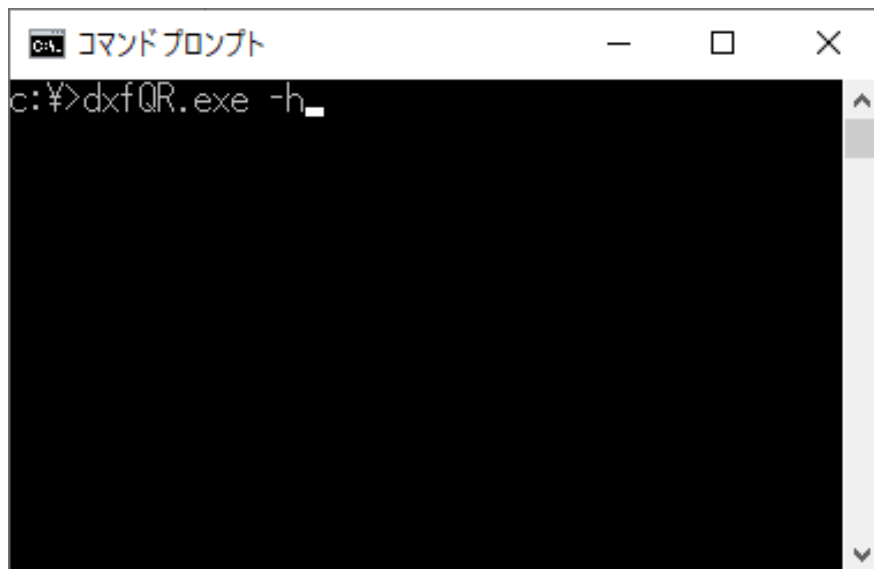


図 8, コマンドライン例

## 4. 付録

### コマンドリスト

-v, -version

Return this app version.

-h, -help

Return this app command list.

-config\_qr\_version

-h, -help : QR code version. (1 - 40)

1 : 21x21

2 : 25x25

3 : 29x29

4 : 33x33

5 : 37x37

6 : 41x41

7 : 45x45

8 : 49x49

9 : 53x53

10 : 57x57

11 : 61x61

12 : 65x65

13 : 69x69

14 : 73x73

15 : 77x77

16 : 81x81

17 : 85x85

18 : 89x89

19 : 93x93

20 : 97x97

21 : 101x101

22 : 105x105

23 : 109x109

24 : 113x113

25 : 117x117

26 : 121x121

27 : 125x125  
28 : 129x129  
29 : 133x133  
30 : 137x137  
31 : 141x141  
32 : 145x145  
33 : 149x149  
34 : 153x153  
35 : 157x157  
36 : 161x161  
37 : 165x165  
38 : 169x169  
39 : 173x173  
40 : 177x177

`-config_qr_error_correction_level`

`-h, -help` : QR code error correction level. (L, M, Q, H)

L : ~7%

M : ~15%

Q : ~25%

H : ~30%

`-config_qr_text`

`-h, -help` : QR text data.

"example text" : Text into "".

`-outputs_image_enable`

`-h, -help` : If true, output QR image.

true : output QR image.

false : not output QR image.

`-outputs_image_width`

`-h, -help` : QR image width(px).

500 : (example value)

`-outputs_image_file_path`

-h, -help : Output image file path. (\*.png, \*.jpg, \*.jpeg, \*.gif, \*.bmp, \*.emf, \*.wmf, \*.tif, \*.tiff)

"C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxfQR.png" : Path into "".

-outputs\_dxf\_enable

-h, -help : If true, output QR dxf.

true : output QR dxf.

false : not output QR dxf.

-outputs\_dxf\_width

-h, -help : QR dxf width.

10.0 : (example value)

-outputs\_dxf\_units

-h, -help : QR dxf units. (Example 1Block = 1x1)

1 : 1Block = 1x1 (example value)

-outputs\_dxf\_cell\_type

-h, -help : QR dxf cell type.

solid : Filled square

solid\_circle : Filled circle

circle : Hollow circle

point : Point

-outputs\_dxf\_file\_path

-h, -help : Output dxf file path.

"C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxfQR.dxf" : Path into "".

-load\_settings

-h, -help : Load setting file.

"C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxfQR.dat" : Path into "".

-save\_settings

-h, -help : Save setting file.

"C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxfQR.dat" : Path into "".

`-create`

`-h, -help` : Create and output QR code files.

`-app_window_enable`

`-h, -help` : If true, open window.

`true` : open window.

`false` : not open window.

example1

```
dxqQR -config_qr_version 5 -config_qr_error_correction_level M -config_qr_text "Example
Text Data" -outputs_image_enable true -outputs_image_width 500 -outputs_image_file_path
"C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxqQR.png" -outputs_dxf_enable true -outputs_dxf_width 10.0
-outputs_dxf_units 1 -outputs_dxf_cell_type solid -outputs_dxf_file_path
"C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxqQR.dxf" -save_settings
"C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxqQR.dat" -create
```

example2

```
dxqQR -load_settings "C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxqQR.dat" -create
```

example3

```
dxqQR -load_settings "C:¥Users¥UserName¥Desktop¥dxqQR.dat" -app_window_enable true
```